

ディスポーザブル培養ベッセルのガス交換能

細胞種：253G1 (プレ培養：253G1細胞をiMatrix511 (Nippi) コートしたΦ60ディッシュで培養)
 培養液：AK02N (Ajinomoto)
 細胞種：MG63 (Osteosarcoma)
 培養液：DMEM (Wako)、10% FBS、Antibiotic / Antimycotic (ThermoFisher)

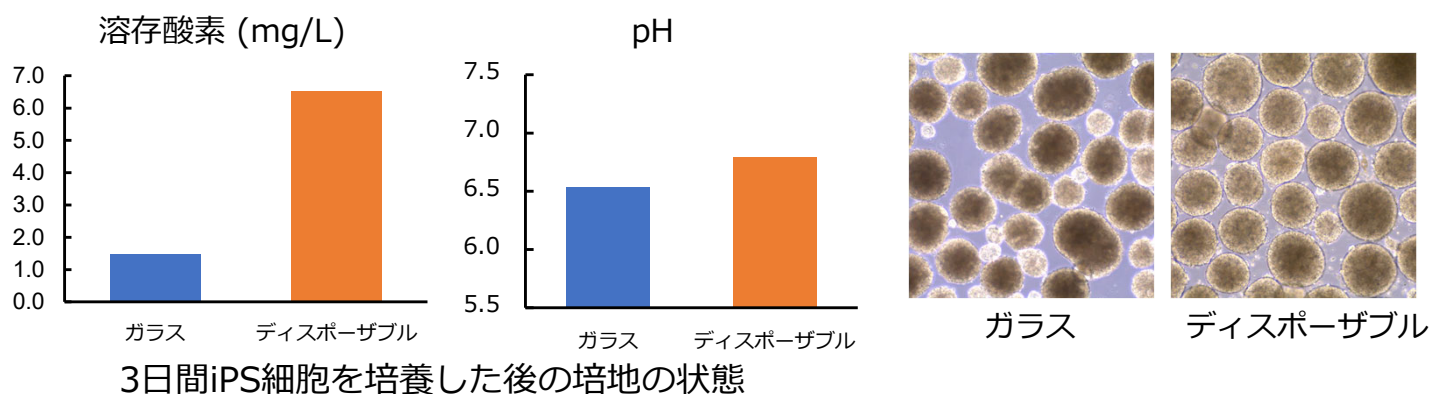
培養容器：ガラス培養ベッセル<10ml>、ディスポーザブル培養ベッセル<10ml>
 培養条件(回転速度)：6-20 rpm

解析方法

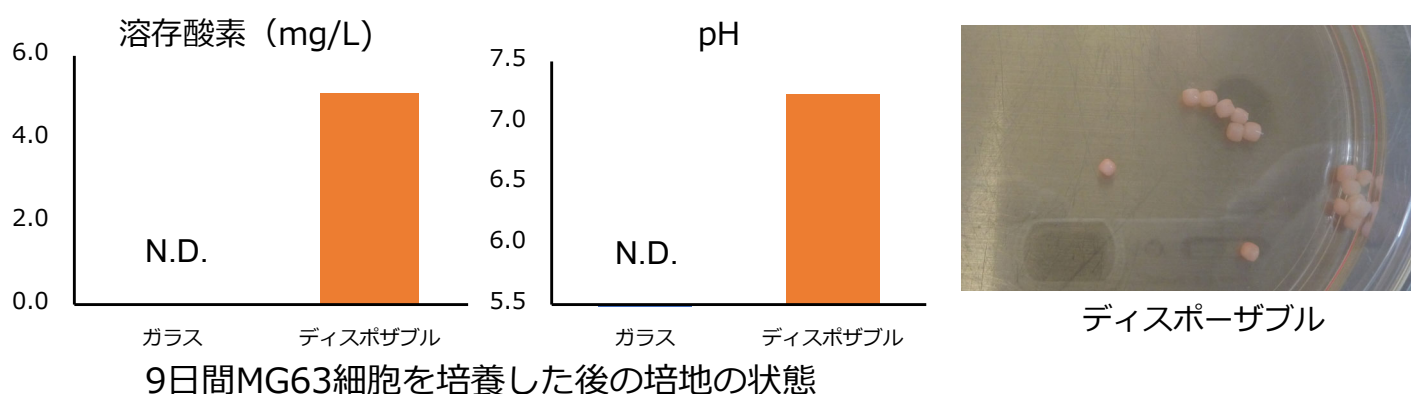
SevenExcellence S900; pH/ DO (MetraTredo)

結果

ヒトiPS細胞



MG63(骨肉腫)細胞



ヒトiPS細胞は両培養ベッセルでスフェロイド形成が可能であったが、溶存酸素量はガラスでの培養時に大きく減少していた。

骨肉腫細胞は、ガラスでは培養できないが、ディスポーザブルでは培養可能であった。

考察

ディスポーザブル培養ベッセルは、がん細胞の培養が可能であるほどに酸素透過性を有していることが示唆された。

お問い合わせ先

(株)ジェイテックコーポレーション 営業部

〒567-0086

大阪府茨木彩都やまぶき2-5-38

Tel : 072-655-2786 Fax : 072-643-2391

info@j-tec.co.jp